

「京都らしさ」との関わり

祭事・伝統行事	食	工芸品染織	建築	造園
祇園祭、白朮祭、書初め、花笠踊り、矢代田楽、山国隊軍楽、嵯峨お松明、鞍馬竹伐り会、広河原松上げ、久多宮の町松上げ、小塩の上げ松、小山の山の神、大原上野町のおこない・お弓等	花見だんご、稚児餅等	京漆器、京扇子、京ちわ、京銘竹、京すだれ、京竹工芸、唐紙、きせる、京葛籠、京丸うちわ、京弓、京和傘、截金、尺八・竹楽器、提燈、矢、西陣織等	京町家等	庭園資材等

生物資源の利用と調達状況の例

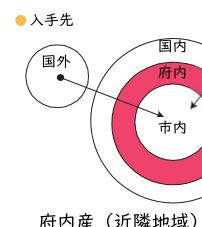


■ 鞍馬竹伐り会

<現状>

- 30年以上前は、寺の周辺で自生していたものを使っていたが、現在では近隣から購入している。

容易 やや難 困難 不明
-入手難易度-

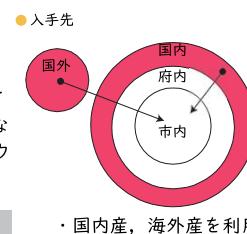


■ 京扇子

<現状>

- かつてはマダケを使っていたが、現在は採取できなくないため、国内産のモウソウチクを中心を使っている。

容易 やや難 困難 不明
-入手難易度-

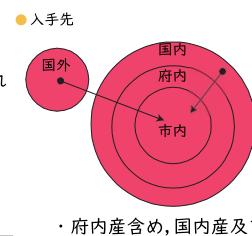


■ 庭園資材

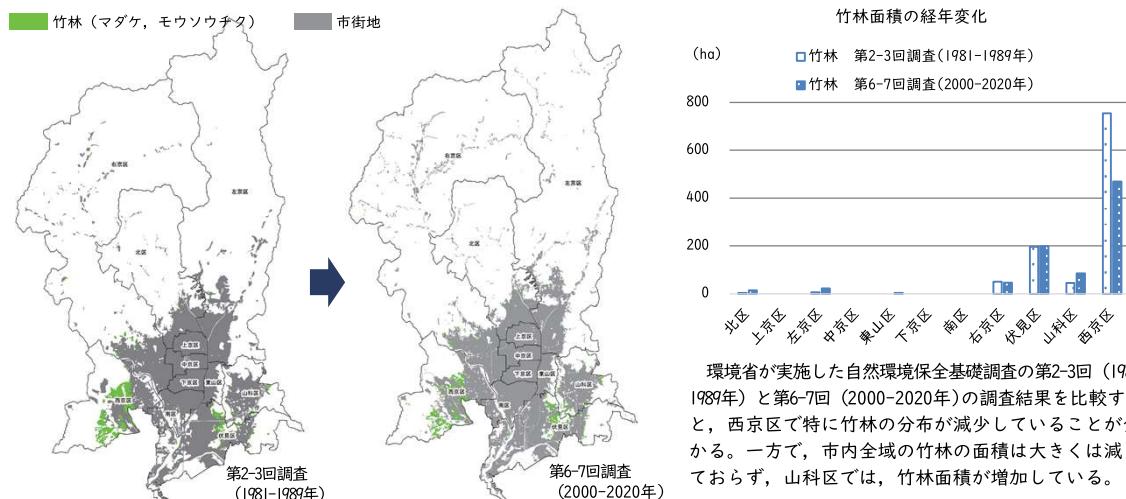
<現状>

- 京都市ではマダケは採れないため、近隣で採取及び国内から購入をしている。モウソウチクは市内及び国内外のものを利用している。

容易 やや難 困難 不明
-入手難易度-



分布（資源）量の推移



減少理由と課題の整理

気象害

枯竹などは台風などの気象害の影響を受けやすい。

獣害

イノシシ等獣害被害の増加。

担い手（管理）不足

竹林の維持管理不足から枯竹、倒竹が多く発生し、新しいタケノコの発生が少ない。

外来種

都市化の影響から分布面積が減少している。

都市化



環境の質の変化

竹林の林床は、上層を葉が密に覆うため暗く、一般的に林床植物は貧弱である。

古竹の伐採や落ち葉搔きなど林床植物に対する環境改善を行うと、出現種数が5倍になることが観察されている。

京都市北嵯峨地区的放棄竹林では、低木層の植被率は低く、また草本層の植被率は極めて低く、アラカシ、チャノキ、ヤブツバキ、サルトリイバラ、アオキ等がわずかに生育するのみであった。竹林経営を行つたための本数調整として、景観林として利用することを目的に除伐を行つたところ、竹林内の光環境が改善され、希少種であるホンゴウソウ、シロシャクジョウの生育を確認したほか、新竹発生数も増加した。



※ 枯竹、倒竹多い。

出典：北嵯峨地区的竹林再活動において撮影。

「京都らしさ」としての位置付け

指標種：マダケ
モウソウチク
ハビタット：竹林



- 様々な構成要素（特に祭事・伝統行事、建築、造園）との関わりが深く、京都の伝統を継承していくには必要な生物資源。
- 竹は生物多様性としての価値とともに、「京都らしさ」を支える生物資源。
- モウソウチク林に生育するタケノコ等の生物資源も含め、竹林というハビタットで保全再生を図り、竹林管理ができる範囲で実施していくと考えられる。

